大腸癌研究会プロジェクト研究

『肛門管癌の病態解明と Staging に関する研究』
第 13 回会議議事録

《日時》2024 年 1 月 25 日（木）13:00-14:00

《会場》浜松町コンベンションホール 5F メインホール A

※会場と Web のハイブリッド形式

《出席者》

委員長：山田一隆

委員：池秀之（横浜保土ケ谷中央病院）、石田秀行（埼玉医科大学総合医療センター）、石田文生（昭和大学横浜市北部病院）、石山泰寛（埼玉医科大学国際医療センター）、井田在香（神奈川県立がんセンター）、伊藤芳紀（昭和大学）、岩本哲好（近畿大学）、上田和毅（近畿大学）、遠藤俊吾（福島県立医科大学会津医療センター）、大内晶（愛知県がんセンター）、沖英次（九州大学）、落合淳志（東京理科大）、小野智之（東北大学）、茅野新（東海大学）、河野眞吾（順天堂大学）、川村純一郎（近畿大学）、木下敬史（愛知県がんセンター）、幸田圭史（帝京大学ちば総合医療センター）、神山篤史（東北大学）、小森康司（愛知県がんセンター）、佐伯泰愼（高野病院）、坂本一博（順天堂大学）、佐々木愼（日本赤十字社医療センター）、澤田紘幸（広島市民病院）、島田安博（高知医療センター）、下池典広（京都大学）、杉本起一（順天堂大学）、須藤剛（山形県立中央病院）、須並英二（杏林大学）、関戸悠紀（大阪大学）、曽田悠葵（防衛医科大学校）、高島順平（帝京大学医学部附属溝口病院）、高槻光寿（琉球大学）、高見澤康之（国立がん研究センター中央病院）、田中正文（高野病院）、谷公孝（東京女子医科大学）、塚田祐一郎（国立がん研究センター東病院）、鳥越貴行（産業医科大学）、中原健太（昭和大学横浜市北部病院）、夏目壮一郎（都立駒込病院）、長谷川誠司（済生会横浜市南部病院）、濱田円（関西医科大学）、肥田侯矢（京都大学）、廣瀬裕一（防衛医科大学校）、藤井能嗣（埼玉医科大学国際医療センター）、藤田文彦（久留米大学）、堀田健太（京都大学）、野澤宏彰（東京大学）、前田耕太郎（藤田医科大学）、松山貴俊（埼玉医科大学総合医療センター）、虫明寛行（済生会横浜市南部病院）、村井伸（東京大学）、山内慎一（東京医科歯科大学）、山口茂樹（東京女子医科大学）、山本聖一郎（東海大学）、結城敏志（北海道大学）、吉敷智和（杏林大学）、吉野孝之（国立がん研究センター東病院）、吉満政義（広島市民病院）、米村圭介（高野病院）

ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ：秋田聡（愛媛大学）、岩本一亜（新久喜総合病院）、大木悠輔（愛媛大学）、堀義城（浦添総合病院）森永友紀子（京都府立医科大学）、八尾隆史（順天堂大学）

【敬称略、50 音順】

《会議内容》

Ⅰ）議題 1.「肛門管癌の病態解明と Staging に関する研究」進捗状況について

（１）第 12 回プロジェクト研究会議事について

委員長の山田より、第 12 回会議議事の確認を行った。

（２）研究計画書の改訂（研究期間延長）について

当院研究分担医師の佐伯より、研究計画書の改訂について報告を行った。

本研究で行っている 10 題の副次研究に関して論文化を進めていること、規約改訂委員会での検討課題のうち、本プロジェクト研究の結果も含めて検討することとなった「直腸型肛門管腺癌における鼡径リンパ節の取扱い」に関して、また 2022/10/5 に改訂された AJCC Cancer Staging System; Anus Ver. 9 への改訂についての本邦における妥当性に関して論文化するため、研究期間を 2024 年 12 月までに延長することとした。本件に関して 2023 年 12 月 14 日に大腸癌研究会倫理審査委員会より承認された。

共同研究施設においては、施設の規定に従って研究期間延長申請をお願いしたい。

（3） 肛門管腺癌における閉径リンパ節の取扱いに関して

委員長の山田より、進捗状況について報告された。

① Therapeutic value index (TVI)を用いた各リンパ節の評価において、肛門管における閉径リンパ節(292LN)の TVI は 3.05 であり、直腸傍リンパ節(TVI: 11.35)ほど高くはないが、主リンパ節(TVI: 0)、側方リンパ節(TVI: 0.92)よりも高かった。

② Akaike's information criterion (AIC), Concordance-index (C-index)を用いた予後分類能の評価において、いずれの指標を用いても 292LN を中間リンパ節としたほうが N 因子と Stage の予後分類能が良好であった。

③ 各リンパ節の転移状況毎の予後に関して、主リンパ節または側方リンパ節転移がある場合、292LN、傍直腸、中間リンパ節への転移によらずに予後不良(5 年生存率 0～20%)であるのに対し、傍直腸リンパ節または中間リンパ節のみへの転移 66 例の 5 年生存率は 49.2%、292LN 単独転移 7 例は 68.6%、292LN および傍直腸リンパ節または中間リンパ節のみへの転移 13 例は 47.6%と同程度であった。

④ Stage III の細分類における 292LN の取り扱いによる予後に関して、表のように A2 の 5 年生存率は 66.7%と B1(47.8%)よりも高くなっているが、292LN を主リンパ節とすると同じ Stage IIIb に分類される。また、B2 の 5 年生存率は 49.2%と C1(28.3%), C2(30.0%)よりも高くなっているが、292LN を主リンパ節とすると同じ Stage IIIc に分類される。そのため、292LN を中間リンパ節としたほうが妥当と考える。

		292LN treated as intermediate LN				292LN treated as main LN					
	292LN	TN category	Stage	n	5-year OS	TN category	Stage	n	5-year OS	n	5-year OS
A1	negative	T1N1, T1N2a, T2N1	Stage IIIa	15	66.0%	T1N1, T1N2a, T2N1	Stage IIIa	12	65.6%	12	65.6%
A2	positive	T1N1, T1N2a, T2N1	Stage IIIa			T1N3, T2N3	Stage IIIb	40	49.3%	3	66.7%
B1	negative	T3N1, T2N2a, T3N2a, T1N2b・N3, T2N2b・N3	Stage IIIb	48	48.4%	T3N1, T2N2a, T3N2a, T1N2b・N3, T2N2b・N3	Stage IIIb			37	47.8%
	positive	T2N2a, T1N2b・N3, T2N2b・N3				T1N3, T2N3					
B2	positive	T3N1, T3N2a	Stage IIIb			T3N3	Stage IIIc	56	31.4%	11	49.2%
C1	negative	T3N2b・N3, T4N1, T4N2a, T4N2b・N3	Stage IIIc	45	28.8%	T3N2b・N3, T4N1, T4N2a, T4N2b・N3	Stage IIIc			34	28.3%
C2	positive	T3N2b・N3, T4N1, T4N2a, T4N2b・N3	Stage IIIc			T3N3, T4N3	Stage IIIc			11	30.0%

以上の検討から、閉径リンパ節は"中間リンパ節"として扱うことが妥当と考える。上記の内容で論文を執筆し、現在、投稿準備を行っている。

（4） AJCC Cancer Staging System; Anus Ver. 9 への改訂について

当院研究分担医師の佐伯より、肛門癌における AJCC Ver. 9 の変更点、UICC 8th, AJCC 8th との違い、および本邦における Staging の妥当性について報告された。

① AJCC Ver. 9 において、T category では Tis (Carcinoma in situ) が削除され、T1～T4 となった。

② N category においては obturator LN (283LN) が N1a に追加されたが元々external iliac LN (293 LN)の一部とされているため、今回の改定で 293LN とは別のリンパ節として記載されるようになっており、領域リンパ節自体に変更はない。

③ Stage においては Tis が削除されたことにより Stage 0 も削除された。
また、T1, 2N1M0 が Stage IIB、T3N0, 1M0 が Stage IIIA で、Stage IIIC は T4N1M0 となっており、T 因子の方が N 因子より予後に影響する因子として再分類された。

④ 本邦における AJCC Ver.9 の Stage の妥当性に関して、AIC, C-index で評価すると、AJCC Ver.9 の Stage に従った方が、UICC 8th、AJCC 8th よりも予後分類能が良好であった。しかし、本邦の症例では Stage IIIA の症例の予後が Stage IIIB、Stage IIIC の予後よりも不良であった。そのため、本邦の症例に適用するには、更に検討を行う必要がある。

II）議題 2. 副次研究について

（1）各施設における論文投稿状況について

現在本プロジェクト研究からは 5 編の論文が雑誌に掲載されていることが報告された。

また、共同研究施設による副次研究に関して、各研究担当者より論文化の進捗状況が報告され、

現在 5 題が投稿済み、4 題が論文執筆中であった。

文責：山田　一隆